

ABBYY® Timeline

ビジネスプロセスの自動分析

ABBYYはビジネスプロセスの分析に注力しています。真のオペレーショナルエクセレンス実現には、組織の運営に不可欠なあらゆるビジネスプロセスを把握することが必要であると考えます。

特許出願中のABBYY Timeline Analysis分析エンジンは、プロセスや複雑度、サイズを問わず、プロセスインテリジェンスの非常に重要なインサイトを直感的に提供します。

真のプロセスインテリジェンスを実現

あらゆる企業では、数多くのプロセスが実行され、数えきれないソリューションを使用したプロセス管理に苦労していることでしょう。ABBYY Timelineはこうしたツールの良いところを一つにまとめることで、一元化されたプロセスインテリジェンスソリューションを提供し、ビジネスプロセスデータの分析に画期的なアプローチを実現します。

ユーザーはタイムラインを用いて、推測ではなく事実をベースにプロセスがどのように実現されているかを素早く解明し、その真実を把握することができます。タイムラインの特に良い点は、さまざまなプロファイルにより、他のどのようなアプローチよりもいち早く結果を得られることです。その結果、時間的余裕の確保を得られる上、理解を深め対処することができます。



1 データがABBYY Timelineに読み込まれると同時にビジネスプロセスのさまざまなプロファイルが表示されます



2 タイムラインは基となるデータが複数のシステムから得られるものであっても、プロセスインスタンスを自動的に再構築します



3 プロセスのスキーマは構造的およびアドホック型(ケースマネージメント)どちらのビジネスプロセス環境であっても自動的に検出されます

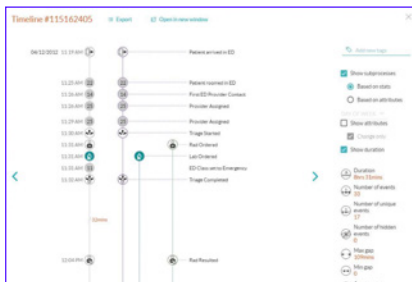
タイムライン分析アプローチ

ABBYY Timelineの真価はタイムライン特有の分析アプローチとプロセスインテリジェンスにあります。この技術を活用して、タイムラインはイベントが実際に実行されたときに得られたデータから元のプロセスインスタンスを段階的に再構築します。

タイムラインで複数のシステムから取得したイベントデータを統合できるので、複数のバックエンドシステムを用いてフェーズの異なるプロセスが実行される場合であっても、プロセスの再構築が可能です。こうして、既存のシステムでは成しえなかったビジネスプロセス全体の可視化と分析を実現します。

タイムラインのビジネスプロセス再構築が完了すれば、それぞれのプロセスをさらに詳しくみていくことができます。また、プロセスが一貫してうまく回っているか、ケースマネージメントの業務ではよく用いられる完全にアドホックかどうかなど、あらゆるプロセス環境でこうした詳細分析が機能する点が特長です。

ビジネスプロセス分析に特化したアプローチにより、ABBYYはあらゆる業種や業務分野で重要なユースケースに幅広いベストプラクティスな分析を提供します。主な機能として、以下の機能があります。



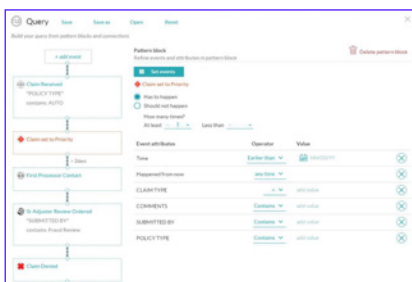
詳細ケース（インスタンス）分析

プロセスの各種ステップが複数のバックエンドシステムで実行される場合であっても、プロセスインスタンスを詳細に分析可能です。サブプロセスの検出にはイベントパターン分析を用います。



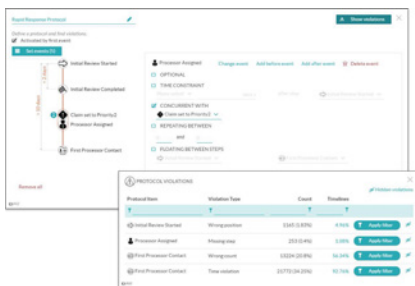
パス分析

業務遂行に有益か否かにかかわらず、影響のある動きの検出に活用できる潜在的な実行パターンを明らかにするため、あらゆるプロセスインスタンスが分析されます。



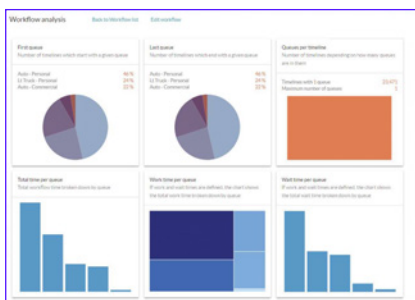
プロセスクエリ

ユーザーはシンプルなポイントアンドクリックの設定ツールを使用して複雑なクエリを簡単に定義し、瞬時に条件に該当するプロセスインスタンスを発見できます。



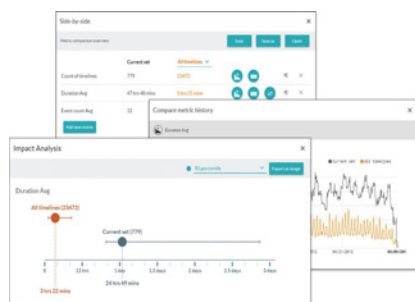
プロトコル分析

プロトコル分析を活用すると、条件に合わないプロセスインスタンスを特定する正確な実行ルール（順番、タイミング、件数など）を指定することができます。



ワークフロー／ジャーニーマッピング

人や作業項目（カスタマーサービス、ITサービス、コールセンター業務など）のキューベースのルーチンを活用するプロセスを自動的に分析します。



並列比較

特定の条件に合うプロセスインスタンスのサブセットを並べて比較し、サブセット毎の違いを特定することができます。



運用ダッシュボード

主要なプロセス測定基準のトラッキングや、業務内容に関する条件の変更があった際のアラートなど、プロセスモニタリングダッシュボードの機能を簡単に定義できます。

Webページの埋め込み

Webアプリケーションのiframeを利用して、ABBYY Timelineモジュールを他のWebアプリケーションに埋め込み利用することができます。即ち、自社内の他のプラットフォームにABBYY Timelineを統合し、分析や可視化が使えるようになります。



・ トップメニュー ・ 上部バー ・ 左側のバー ・ 右メニュー